

東北海区沿岸水温予報(2005年)

海域	経過 (2~4月)	現況(5月~6月上旬)	見通し (6~8月)	見通しの背景	特異現象 (漁海況)
三陸北部 (青森県太平洋沿岸; 青森水試発表)	定線観測結果 3月:津軽暖流(尻屋崎線)の最高水温は、表面層、50m層、100m層ともやや高め、水塊深度がやや深め、津軽暖流の張り出し位置はやや西偏 定地水温 2月: 平年並み 3月: 平年並み 4月: 平年並み	定地水温 5月~6月上旬 平年並み~やや低め	津軽暖流域の水温は、平年並みからやや高め。 津軽暖流の東方への張り出しは、平年並み。	3月の定線観測結果では、やや高めとなった。 5~6月の日本海定線観測の結果では、対馬暖流の勢力が平年並みからやや強めであった。	4月19日 八戸市に21kgのマスノスケが水揚げされた。 5月9日 三沢沖の定置網にサワラ(3~4kg)が26尾入網 5月13日 八戸市の定置網にミズウオが入網
三陸中部 (岩手県沿岸; 岩手水試発表)	2月 表面:黒崎沖合0~6海里で平年並のほからは、概ね1~6 低め 100m深:黒崎沖合0~8海里で平年並のほからは、概ね1~5 低め 3月 表面:本県沖合40海里以内で平年並~4 低めのほからは、概ね1~3 高め 100m深:黒崎沖合15~25海里付近、トドヶ崎0海里付近、尾崎沖合30海里から椿島沖合20~50海里にかけて1~3 低めのほからは、平年並~3 高め 4月 表面:県北部、県中部の沖合50~70海里にかけてと椿島沖合0~20海里で1~3 低めのほからは概ね平年並~3 高め 100m深:黒崎沖合40~50海里にかけて1~3 低めのほからは概ね平年並~3 高め	5月 表面:県北部~県中部で平年並~2 高め、県中部~県南部で平年並~2 低め 100m深:県南部沿岸で平年並のほからは1~3 高め 6月上旬 表面:県南部沖合で平年並~2 高めのほからは概ね1~5 低め 100m深:県北部~県中部沖合で1~3 低め、県南部沖合で1~3 高めのほからは概ね平年並	表面 県北部~県中部で平年並~やや低め、県南部は高め基調の平年並 100m深 県北部~県中部で低め基調の平年並、県南部で高め基調の平年並	6月の海洋観測では県南部沖合に暖水の波及の兆しがあった。 6月時点で、偏差持続モデルによる1ヶ月予測を行ったところ、全海域で平年並という結果になった。	県南部の大船渡で、定置網のクロマグロがこの時期としては多く漁獲された。
三陸南部 (宮城県沿岸; 宮城水試発表)	2,3月:親潮系冷水の影響が強く、平年よりやや低め~極めて低めに推移した。 4月:2,3月から継続して親潮系冷水が分布しており、表面では平年よりやや低め~低め傾向であったが、100m深ではほぼ平年並となった。	5月は、表面では平年よりやや低め~平年並、100m深では平年より低め~平年並であった。6月に入ると、表面では平年より極めて低め~やや低めとなり、100m深では親潮系冷水の分布する北部沖合海域で平年よりやや低めの他は、ほぼ平年並となった。	親潮系冷水が断続的に波及し、北部沖合海域と中南部沿岸海域は、平年よりやや低めに推移する。他の海域は、平年並に推移する。	「宮城県沿岸の海況予測モデル」による計算を実施。岩手県~福島県海域における今年6月の類似年は、1988年および1998年となった。親潮系冷水が断続的に波及している。	・仙台湾のシャコ不漁。(例年の水揚げピークである5月の月間水揚げ量は1995年以降最低で、過去10年平均の9%程度) ・仙台湾内の夜光虫が6月まで赤潮を形成。(例年は5月までで収束する。)
常磐北部 (福島県沿岸; 福島水試発表)	2月:親潮系冷水の波及が鶴ノ尾崎、富岡沖沿岸75海里から塩屋崎沖45海里付近にかけてみられる。黒潮系暖水の波及はみられず、水温はやや低めであった。3月:親潮系冷水の波及が本県沖距岸30海里から50海里付近にかけてみられる。塩屋崎沖沿岸100海里付近にも沖合よりの親潮系冷水の波及がみられ、黒潮系暖水の波及はみられない。水温はやや低めであった。4月:親潮系冷水の波及が鶴ノ尾崎沖距岸50海里付近から富岡沖65海里付近にかけてみられる。黒潮系暖水は、塩屋崎沖50海里より沖合から富岡沖100海里付近にかけて薄い波及がみられるのみでその勢力は弱い。水温は平年よりやや低めであった。	5月:親潮系冷水の波及が本県沖距岸50~75海里付近の表層にみられる。黒潮系暖水の波及は本県沖95海里より沖合にみられ、灘側に目立った波及はみられない。水温は平年よりやや低めであった。6月:親潮系冷水の断続的な波及が距岸30~40海里より灘側でみられる。よりに沖では黒潮系暖水が広く分布した。水温は平年並み。	灘側の親潮系冷水の断続的な南下が引き続きみられ、水温は平年並みからやや低めと低め基調が継続する。	現況では黒潮系暖水の波及傾向が見られるが、灘側では親潮系冷水の波及が引き続くと予想される。自己回帰予測による水温偏差はやや低め~低め。	コウナゴ漁の漁期がおよそ1ヶ月程度遅れた。
常磐南部 ~鹿島灘 (茨城県沿岸; 茨城水試発表)	2月:親潮系冷水の影響が強く、平年より低い~極めて低いで推移した。 3~4月:親潮系冷水の影響が強く、平年よりやや低い~極めて低いで推移した。黒潮の流路の変動により度々暖水舌が形成された。	5月:黒潮の流路の変動により、弱い暖水波及が発生したが、強い親潮系冷水の影響で、低い~極めて低い水温で推移した。 6月:5月より冷水傾向は緩和したが、継続して親潮系冷水が分布し、平年より低い~極めて低いで推移した。	北上暖水の影響で、冷水傾向は徐々に緩和するものの、親潮系冷水の影響が残り、平年より低めに推移する。	茨城県海域における類似年は、1996年および2003年となった。2ヶ年共に親潮系冷水が断続的に波及している。	・小底で、6月にハタハタが数尾漁獲(報告例(04他調査中)) ・シラスが不漁(5月まで) ・海洋観測におけるクリオネ採捕の記録更新(犬吠定線(南限)で初、5月の採捕)

階級区分(出現率)	三陸北部	三陸中部		三陸南部	常磐北部	常磐南部～鹿島灘
		距岸10海里内	距岸10～70海里			
極めて高い(2.5%)	+2.4 ~	+4.0 ~	+6.0 ~	+2.4 ~	+4.0 ~	+4.0 ~
高い(7.5%)	+1.6～+2.3	+2.5～+3.9	4.0～+5.9	+1.6～+2.3	+2.5～+3.9	+2.5～+3.9
やや高い(20%)	+0.7～+1.5	+1.0～+2.4	1.5～+3.9	+0.7～+1.5	+1.0～+2.4	+1.0～+2.4
平年並み(40%)	+0.6～-0.6	+0.9～-0.9	1.4～-1.4	+0.6～-0.6	+0.9～-0.9	+0.9～-0.9
やや低い(20%)	-0.7～-1.5	-1.0～-2.4	1.5～-3.9	-0.7～-1.5	-1.0～-2.4	-1.0～-2.4
低い(7.5%)	-1.6～-2.3	-2.5～-3.9	4.0～-5.9	-1.6～-2.3	-2.5～-3.9	-2.5～-3.9
極めて低い(2.5%)	-2.4 ~	-4.0 ~	-6.0 ~	-2.4 ~	-4.0 ~	-4.0 ~